

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

とあるアラフィフ大学生の体験記

通信教育部社会福祉学科卒業生 **高橋 陽子**

はじめに

寄稿のご依頼をいただき感慨深いものがあります。レポートなんてまともにも書いたこともないアラフィフ大学生の私は、この3年間「どこかに大学生生活を無事にやり遂げるヒントはないか」とかじりつくようにこのコーナーを読み続けてきました。おかげさまでこの春、精神保健福祉士国家試験に合格し卒業することができました。ヒントになるかわかりませんが、ご恩返しのつもりで私がどんな風に学生生活を送ってきたかをお話してみたいと思います。

とにかく計画が大事

仕事と家事をやりながら最短で国試に受かって卒業するには、卒業までを見通した計画が必要でした。『学習の手引き』や『With』にはきちんと目を通し、先を見越した学習スケジュールを立てました。途中、仕事のこと、家のことなど不測の事態がいろいろと起こりましたが、そういったときには速やかに軌道修正をしていきました。スケジュール帳に学習スケジュールを入力するときには、もうひとパターン別ルートとして、「予定より早く課題を仕上げて追加履修をするためのスケジュール」を書き込み、こちらのスケジュールを進めることを目標にしました。入学1年目と2年目に大学で示してくれるモデルプランより多くを履修することで、最終学年は演習と実習、受験勉強に集中することができました。

情熱と好奇心を持って授業やレポートに取り組む

ひとつのレポートを書くのに15冊ほどの本を読みました。その他に論文、ニュース、ネットの情報など、福祉に関係するものにアンテナを張り続けました。すると当然今取り組んでいるレポートとは直接関係のない情報も入ってきます。これらを疑問が湧くまま、興味のままに調べてWordにメモを取りました。「手っ取り早い方法で単位さえ取ればいい」という方にとっては、こうしたやり方は非効率に思えるかもしれませんが、しかし、Wordに残したメモは、他の科目のレポート作成の際に役に立ったり、卒業試験で論じるネタにできたりと、結果として時短にもなりました。そのようにしてレポート作成に取り組んでいると、2年目に入る頃には知識が積み上がり、課題を見てパッと「これについてだったら、こんなことを論じたい」と思いつくようになり、ぐんと楽に、楽しくなってきました。オンデマンド授業とレポートにしっかり取り組むことは、結果として受験対策にもなりました。最終学年の5月、3年分の過去問をオンデマンド授業とレポート作成で得た知識を頼りに解いてみたところ、受験勉強を始めていないにもかかわらず、3年分とも合格点が取れました。

レポートはお手紙感覚で

レポートは先生へのお手紙、文通だという気持ちで書きました。まずは先生からのお手紙であるレポート課題集を熟読します。そして、先生が学生に何を理解してほしいのか、何を考えさせたいと思っているのかを読み解きます。そして「先生のお手紙を受けてこういうことを理解しました。それで、こんな疑問を持ちまして調べてみたんですよ。そうしたらこんなことがわかって、こんなデータも見つかりました。そしてこんなことを考察したのですが、いかがでしょうか？」というお返事をしたためるのです。

大事なのは、先生からのお手紙を読み誤らないことです。そうすることでこちらからの手紙の内容が課題の趣旨から外れずに済みます。

受験はゲーム

私の場合、受験対策講座で三城先生がおっしゃった「受験は攻略するゲーム」という言葉がストンと腹に落ち、その瞬間「試験勉強は辛いもの」という認識が「楽しそう！」に変わりました。攻略の仕方も講座で教えてもらったので、あとは出ると言われた項目ごとに「ここは国試ナビがうまくまとまっているな」「人物はワークブックの方が詳しいな」「ここは自分で表にしてみよう」という風に作戦を立てて、自作ノートも作りながら攻略していきました。参考書としてメインで使ったのは国試ナビでした。ワークブックは背表紙に蒸気を当てて科目ごとに分解して薄い本を作り、バッグに入れて隙間時間に読み物のような感覚でざっくりと読みました。ある程度知識が頭に入ったら模擬試験や過去問を解いて、答え合わせをしながら、正否だけでなく「なぜこの設問は間違いなのか」を説明できるくらいまで復習します。このとき、自作ノートが不十分だったら補強していきます。そしてノートを見返しては問題を解く、というのを繰り返していきました。このプロセスをゲーム感覚で楽しんだところ、結果として138点という点数が自動的についてきました。

通信での学びは孤独な戦いではない

まずは、先に述べたようにレポートをお手紙だと思って書くことで孤独は薄れます。私は先生の顔写真をとくと眺めて目に焼き付けてからレポートを書いていました。在学中に困ったことがあったときは、ひとりで悩まず、通信教育係の方に相談するのがオススメです。みなさんとても親切に

親身になってくださいますよ。私の場合、実習を控えた時期に母が入院するというアクシデントもありましたが、その際には私の苦悩や葛藤にまで真摯に寄り添ってくださいました。実習前の演習では、先生が「何かあったら相談してください。大学はみなさんの味方ですから」とおっしゃってくださって、とても勇気づけられました。実習ではこれまで得た知識とのギャップを感じ混乱することもありましたが、帰校指導や巡回指導で先生に指導を受けることで乗り切ることができました。演習や受験講座で得た仲間は大事な宝です。みんなも頑張っているんだろうなと思いながら実習や試験勉強に取り組むことで、とても心強かったです。お世話になった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

おわりに

学んでは問い、問うては学ぶ。実習で現場を垣間見て、もがきながら考察する。先生や仲間とディスカッションをする。今こうして学生生活を振り返り、なんて豊かな時間だったのだらうと思います。在学中の皆様の学生生活も、実り多いものとなりますようにとお祈りしております。

